

環境影響調査集計表 環境影響に関する授業一覧

(対象年度: 2019年度 調査実施年度: 2020年度)

分類: (1) 自然環境、社会環境、文化環境、医学・保険環境等の理解促進に関わる授業
 (2) 環境側面(環境に影響を与える要因)を個別具体的に対象とする授業

| 部局 | No. | 授業題目 | 分類 | 学年 | 開講学科・専攻 | 担当者 | 授業の概要 |
|------|-----|--------------|-----|------|------------------------|---------------------|--|
| 人文学部 | 1 | 環境エネルギー政策論 | (1) | 1~4 | 共通教育科目 | 茅野恒秀 | 世界および日本で進められているエネルギー戦略シフトの動向をふまえ、国際レベル、国全体、そして地方のレベルにおける環境エネルギー政策について学習する。 |
| | 2 | 社会学特論Ⅳ | (1) | 2~4 | 人文学部 人文学科 | 茅野恒秀 | 「地域資源管理の社会的技術」を主題とし、地域社会の生活基盤をなす自然資源・文化資源をめぐる諸問題を中心に検討しつつ、現代地域社会における地域資源管理の諸問題を取り上げた。 |
| | 3 | 社会調査実習Ⅱ | (1) | 2~4 | 人文学部 人文学科 | 茅野恒秀 | 安曇野市の薪ストーブ利用世帯を対象に量的調査を行い、薪の利用実態から地産地消率などを算出するとともに、各集落と共有薪炭林との関係性の現状や、地域産材のニーズなどを把握した。 |
| | 4 | 中世英語文献学入門 | (1) | 1, 2 | 共通教育科目 | 伊藤盡 | 人間による自然開発(破壊)によって、自然物がどのように人間との関係を認知するかをテーマにした解釈を中世文学作品に求めた。 |
| 理学部 | 1 | グリーンサイエンス通論Ⅰ | (2) | 1 | 理学部 化学コース | オムニバス | グリーンサイエンスの内容を担当し、化学物質による環境汚染を防止し、人体や生態系への影響を最小限に抑えることを目指した化学についての講義を行った。 |
| | 2 | 計測化学特論 | | 修士1年 | | 高橋史樹 | 諏訪湖の採水を通じて環境への理解を深める。 |
| | 3 | 分析化学実験 | (1) | 2 | 理学部 化学コース | 巽広輔 高橋史樹 金継業 | 実験で出る廃液の環境への影響について説明し、その適切な処理方法について指導した。 |
| | 4 | グリーンサイエンス通論Ⅰ | (1) | 1 | 理学部 物理学コース 化学コース | 巽広輔 | 環境分析のいくつかの項目を取り上げ、その測定法を解説した。 |
| | 5 | 物理化学実験 | (1) | 3 | 理学部 化学コース | 浜崎亜富 二村竜祐 飯山拓 | 実験試薬、廃液の取り扱いについて学んだ。 |
| | 6 | 物理化学Ⅱ | (1) | 2 | 理学部 化学コース | 飯山拓 | 熱力学に関する基礎的講義の中で、温室効果ガスである二酸化炭素やメタンの性質について触れた。 |
| | 7 | 物理化学Ⅲ | (1) | 3 | 理学部 化学コース | 飯山拓 | 物理化学に関する基礎的講義の中で、フロンガスがなぜ利用されたか、オゾン層破壊など、どんな問題を生じたかについて触れた。 |

| | | | | | | | |
|--------|----|------------------------|-----|---|-----------------------------------|---------------------|---|
| 理学部 | 8 | 物理化学実験 | (1) | 3 | 理学部 化学コース | 飯山拓 浜崎亜富 二村竜祐 | 実験試薬、廃液の取り扱いについて学んだ。 |
| | 9 | 物理化学実験 | (1) | 3 | 理学部 化学コース | 浜崎亜富 二村竜祐 飯山拓 | 実験試薬、廃液の取り扱いについて教育を行った。 |
| | 10 | 物理化学 I | (1) | 2 | 理学部 化学コース | 浜崎亜富 | 量子化学・光合成反応を絡めた環境についての講義 |
| | 11 | 化学実験 | (1) | 1 | 理学部 理学科 | 石川厚 浜崎亜富ほか | 実験試薬、廃液の取り扱いについて教育を行った。 |
| | 12 | 地球史学 | (1) | 2 | 理学部 地球学コース | 吉田孝紀 | 地球環境の変遷を教える |
| 全学教育機構 | 1 | 環境保全論入門 | (1) | 1 | 共通教育科目 | 浅野郁 | 人間社会が抱えている様々な環境問題について、その問題の基礎的な知識や概念を修得し、自分なりの考えが述べられる思考力を養成する。 |
| | 2 | 環境マネジメント入門ゼミ | (2) | 1 | 共通教育科目 | 浅野郁 | 環境マネジメントシステムの基礎知識を修得した上で、様々な取り組み例を調査する。最後に、SDGs時代に求められる今後の環境マネジメントについて議論する。 |
| | 3 | 生活の中の化学 | (1) | 1 | 共通教育科目 | 勝木明夫 | 環境問題の基本となる基礎的な化学を授業で扱い、環境問題についても考えるきっかけとなるように進めた |
| | 4 | 自然環境行政入門ゼミ | (1) | 1 | 共通教育科目 | 加藤麻理子 | 自然環境の保全に関わる国立公園行政や希少種保全などの概要を解説する授業 |
| | 5 | 環境と生活とのかかわり | (1) | 1 | 共通教育科目 | 加藤麻理子 | 地球温暖化やプラスチックゴミ問題などを含む環境面の様々な話題を扱い解説する授業 |
| | 6 | ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ) | (1) | 全 | 共通教育科目, 高等教育コンソーシ アム信州 遠隔配信 | 松岡 幸司 | 「ネイチャーライティング」を含む「環境文学」という文学ジャンルの視点、および作品を紹介し、そこに現れる自然・環境意識を「心でとらえる」学びを通して、「環境マインド」の育成を促進した。 |
| | 7 | 環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ) | (1) | 全 | 共通教育科目, 高等教育コンソーシ アム信州 遠隔配信 | 松岡 幸司 | 「環境文学」という文学ジャンルの視点、および作品を紹介し、そこに現れる自然・環境意識を「心でとらえる」学びを通して、「環境マインド」の育成を促進した。 |

| | | | | | | |
|----|------------------|-----|-------|------------------|-----------------------|---|
| 8 | ドイツ環境ゼミ | (1) | 主に1年次 | 共通教育科目 | 松岡 幸司 | 「グローバルな視点で環境問題にアプローチできる姿勢と能力」を身につけるために、3週間のドイツ研修(語学研修+環境視察)を行い、その成果をレポートにまとめ、公開報告会にて発表する。 |
| 9 | 環境社会学入門 | (2) | 1 | 共通教育科目 | 金沢謙太郎 | 本講では、環境社会学の理論的思考や実践的研究方法を学んだ上で、環境問題に対する自分なりの考察や批判ができることを目標とします。 |
| 10 | 熱帯雨林と社会 | (2) | 1 | 共通教育科目 | 金沢謙太郎 | 熱帯産の食料や資源などを事例に、それらの大量移動に伴う影の問題や現地社会と私たちが抱える現代的課題について考えます。 |
| 11 | 生態資源論ゼミ | (2) | 1 | 共通教育科目 | 金沢謙太郎 | 生態資源とは、人とともに存在し生きてきた資源を指します。県内の生態資源を事例とし、それらの利用の歴史と現状、展望を探ります。 |
| 12 | 環境マインド実践基礎論 | (2) | 1 | 共通教育科目 | 金沢謙太郎 加藤麻理子 浅野郁 | 環境分野の幅広い課題の基礎知識を身につけ、特に国際社会の共通の目標であるSDGsや、持続可能な循環共生型の社会構築を意識して、課題解決の考え方を学びます。 |
| 13 | 環境マインドを現場で体験するゼミ | (2) | 1 | 共通教育科目 | 大塚勉 池田敏彦 金沢謙太郎 | 水生生物による環境調査、NPOの環境保全活動などの見学実習を通じて、信州の地域環境への理解を深め、社会貢献のあり方を議論します。 |
| 14 | アジア開発環境論 | (2) | 1 | 共通教育科目 | 金沢謙太郎 | 「アジア環境白書」シリーズを手掛かりとして、アジアの開発と環境をめぐる「いま」を読み解いていきます。「持続可能な開発」概念を問い直し、私たちに求められている「かかわり」を議論します。 |
| 15 | 環境社会学概論 | (2) | 3 | 経法学部 | 金沢謙太郎 | 本講では、環境問題、環境文化、環境行動の3つの領域における問題群から、具体的事例に基づいて考えていきます。 |
| 16 | 山岳科学概論B | (1) | 大学院 | 大学院(山岳科学教育プログラム) | 金沢謙太郎 | 人間活動と山岳の関わりに目を向けた際の応用面の視点を養います。 |
| 17 | 日本国憲法 | (1) | 全 | 共通教育科目 | 小池洋平 | 日本国憲法を素材として、法律環境および政治環境について概説した。 |
| 18 | 現代社会における人権 | (1) | 全 | 共通教育科目 | 小池洋平 | 現代社会における人権問題を素材として、法律環境と政治環境で生じている問題を人権の視点からいかに解決すべきかを解説した。 |
| 19 | 現代社会における統治機構 | (1) | 全 | 共通教育科目 | 小池洋平 | 現代社会における統治に関わる憲法問題を素材として、政治環境で生じている問題を法的にいかに解決すべきかを解説した。 |

| | | | | | | | |
|--------|----|-------------------------------|-----|---|-----------------------|---------------------|---|
| 全学教育機構 | 20 | トレッキング1 | (1) | 1 | 共通教育科目 | 廣野 加藤綾乃 | 「信州の自然体感」をテーマに、自己の身体を再確認し、運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題について理解を深める授業。 |
| | 21 | 農山村と環境(第2,3回) | (1) | 1 | 共通教育科目 | 内川義行 (分担:林靖人) | 農山村・中山間地の持つ自然資源や生物資源等の保全と活用について、多様な専門分野の教員がオムニバス形式で話題提供を行う |
| | 22 | エコ水車と地域バイオマス活用(6-10回フィールドワーク) | (1) | 1 | 共通教育科目 | 池田敏彦 天野良彦 林靖人 | 信州の自然資源を活用した小水力・ナノ水力発電や木材等を中心とした生物由来資源を活用したエネルギー利用についてフィールドワーク等も交えながら学ぶ |
| | 23 | 系統分類学 | (1) | 1 | 理学部 生物学コース | 東城幸治 | 地球上に生命が誕生してからの約40億年間、生物はどのように進化・多様化してきたのか?そのプロセスを反映させた分類体系を理解する。 |
| | 24 | 進化多様性生物学 | (1) | 2 | 理学部 生物学コース | 市野隆雄 | 人間の性質はどこまで遺伝子によって決まっているのか、また地球上に人類が出現して以来、人間はどれほど生物種の絶滅や生態系の攪乱を引き起こしてきたか。これらの点について科学的に広く理解することが第一のねらいである。 |
| 医学部 | 1 | ヒト生物学 | | 1 | 医学部 医学科 | 多田 | ヒトの機能や疫病とsustainable societyの重要性 |
| | 2 | 実験動物学 | (1) | 3 | 医学部 保健学科 臨床検査医学 | 吉沢隆浩 山中仁木 | 実験動物を用いた研究成果が日常生活のどこで役立っているのかを学ぶ。また、日常生活に潜む動物由来の感染症について考える。 |
| | 3 | 環境とリスク | (1) | 全 | 共通教育科目 | 山中仁木 吉沢隆浩 | 環境中や日常生活に潜む人の健康を脅かすリスクについて、動物や食品、生活スタイルに焦点をあて学ぶ。 |
| | 4 | 健康科学・理論と実践 | | 1 | 共通教育科目 | 塚原照臣 | 地球環境の変化(主に温暖化)と私たちの健康への影響について理解を深め、自らがどう対処していくかを習得することを目的に授業を行った。 |
| | 5 | 衛生学公衆衛生学演習・実習 I 環境医学概論 | | 3 | 医学部 医学科 | 野見山哲生 | 環境因子とヒトの健康について、ヒトに影響を与える外部環境について授業を行った。 |
| | 6 | 衛生学公衆衛生学演習・実習 I 環境医学の実際1,2 | | 3 | 医学部 医学科 | 塚原照臣 | 環境因子と健康影響について授業を行った。 |
| | 7 | ユニット講義(臨床決断・社会医学)環境医学のトピック | | 6 | 医学部 医学科 | 大前和幸 | 環境保健におけるトピックスを通じて、健康と環境の関係について概略について授業を行った。 |

| | | | | | | | |
|----------|---|------------------------------------|-----|---|------------|--------|--|
| 医学部 | 8 | ユニット講義(臨床決断・社会医学)子どもの健康と環境に関する全国調査 | | 6 | 医学部 医学科 | 野見山哲生 | エコチル調査の概要を理解し、環境要因と子どもの成長・発達について授業を行った。 |
| | 9 | 社会・環境人間健康学概論 | | 1 | 大学院修士課程 | 野見山哲生他 | 環境因子とヒトの健康について、ヒトに影響を与える外部環境について授業を行った。 |
| 部内 局部 | 1 | 健康科学・理論と実践 | (1) | 1 | 共通教育科目 | 森田先生他 | 大学教育における基礎的な能力として、大学生活を健全に送り、かつ生涯にわたって健康を維持増進するための健康科学の知識と実践方法の習得を目的とする。 |